

民報あばしり

NO.887

2012.10.7

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F四三三・四四五七



9月議会・平成23年度一般会計

6特別会計決算及び水道事業会計決算に反対!

日本共産党議員団を代表して、松浦敏司議員が決算委員となり、各分野にわたって質問しました。10月1日に決算審査特別委員会報告があり、飯田敏勝議員が一般会計決算および6特別会計と水道事業会計に反対の立場から討論しました。

一般会計は、単年度では黒字だが、過去の借金返済に縛られる厳しい状況が続いている。監査委員指摘の財政の硬直性、弾力性判断の経常収支比率は、98.9%の高く、実質公債費比率も18.2%と公債費負担適正化計画の策定を義務づけられる許可団体から抜けられない。これでは、市民本位の政策転換もできず、経常収支比率でも、公債費の割合が阻害になり、市民へのくらし、福祉・教育に配分できない弾力性を欠く状況ではないか。

一般会計の借金残高は減っているが、360億円あり、債務負担行為額という長期の隠れた借金が40億円にのぼり、取崩し可能基金20億円を差引いても380億円に達する。これに、特別会計の22.7億円、水道63億円、下水道105億円と市全体の借金は570.7億円と市民一人当たり14.8万円となり、苦しい状態に変わりはない。

市長の本格的な政策で予算を組んだ年度であるが、政策転換には可能な限りの審議日程とより丁寧な説明責任が必要なのは言うまでもありません。

しかし、震災関連の学校耐震化補正の有利な財源措置により、学校給食での自校方式から親子方式への転換に私たちは「食育推進と安心・安全を担保する」ために学校・地域・父母をまきこんだ全体的討議が必要との立場から反対をした経緯があります。そして現在、自校方式をとる西小・呼人小・白鳥台小には正職員の配置がなく、市全体でも2割の正職員体制では、自校方式と同じような効果を推進出来ないことを指摘しておきます。

更に行政改革による人員削減と業務量増大は担当部局での市民生活の実態を反映した政策に制約をもち、経済的、社会的格差から取り残された生活弱者の方をしつかりと見据えた政策転換には到達できず、総体的に暮らし・福祉・教育を中心とした市民密着型には届かず、基本的には反対です。



松浦奮戦も

日本共産党議員団が9月議会に要請した「オスプレイの配備撤回を求め」意見書が、

全会一致で採択になり関係行政庁に送付されました。また、国民の半数以上が安全性を懸念し、沖縄が県を上げて配備反対の総意を示す中、米海兵隊のオスプレイ6機を山口県岩国基地から沖縄県普天間基地へ移し、「世界一危険な基地」へ配備を強行しました。

アメリカ国内で反対の声が上がると配備をやめるのに、日本では国民の半数以上が反対しても配備を強行するのはなぜでしょう。米軍は「オスプレイが墜落するのはパイロットの技術の問題だといっていますが、オスプレイの性能が悪いから高度な技術が必要なのです」なのに「世界一住居が密集している基地に配備するな」と沖縄県民が理解できないのは当然です。

日米政府の配備強行は暴挙です。野田内閣のデータメナ安全宣言など、とても許されません。

いよいよ東奔西走

9月議会が終わりました。専決処分報告・補正予算・一般会計・決算審査特別委員会と実質1ヶ月にわたる日程

は2月、3月の予算議会に続く長丁場の議会です。

23年度の決算ですが、決算は、網走市の1年間の通知表のようなものです。限られたお金を有効に使うことを前提にしながら予算執行が展開する。そこには努力または怠慢の跡や結果が記されています。成績をつけるのは、議会であり住民だと言われています。

手順でいうと、自治体の1年間の計画が予算、その執行は実行、そして、決算を結果の点検に当てはめると、結果をよく調べ、分析し、問題点をつかみ、改善・改革していく、この繰り返しで自治体の仕事の内容が高まっていく言われています。

その成績の結果・点検次第を来年の25年度予算編成に生かすことが行政側であり、チェック機能のほかに政策形成能力をも併せ持つ議会側でもあります。両者の切磋琢磨の攻防が質の高い予算編成につながって行くのですが……

流水

今年もブック・ドクターの方々が夢と希望を抱えて来網した▼”しんさん”は、9月4日(金)に絵本を持つ

て幼児に笑顔と笑いを届けてくれた。一般講演では、昨年の被災地の子ども達がいまだ瓦礫だらけの街から湧き上がる希望を膨らませ、落着いていけると報告。「大人は子どもに安心できる環境と、『大丈夫だ!』という存在でありたい」と。『大丈夫』は信じていることであり、認めてもらうことだ。現地の保育士が一人となつて希望を持てる”人”を育てている。財産である▼7日(木)”あきひろさん”の講演は、南定で実施。「しげるちゃん」という女の子の名前にまつわる絵本を読んだ。亡くなった兄への願いを込めてつけられた意味がわかった時、名前を好きになろうとするドラマが展開された。参加した生徒の横顔、いじめの原因がこんなところにあるということがわかる話に聞き入る姿が印象深かった▼「大好きなこと、いやなことがはっきりしている生き方」と▼自分の居場所になる、そういう社会が必要だが、子ども達に不安を与える現状が続く。権力を振りかざして強引に決めるやり方を、黙ってみているわけではない。二人のブックドクターから勇気と希望のメッセージをいただき、心からの拍手を送った。(て)